

よえもん



論語から学ぼう
(記念館の玄関前に掲示しています)

《 第13号 》 (2021年6月発行)

令和3年度展示より

「藤樹規」の教え

シリーズ
よえもん



藤樹先生が生まれた江戸時代のはじめは、徳川家康が幕府を開き、戦国時代からの乱れた世の中の様子だんだん落ちつき、人々はようやく平和な暮らしができるようになりました。そのころの学問で、まず盛んになってきたのは儒学でした。これは、孔子の教えをもとにした道徳や政治の学問です。

儒学は、身分の区分を重んじ、殿さまへは忠をつくすこと、親に孝をつくすことの大切さを中心に教えました。とりわけ、中国の宋の時代の朱子という学者が孔子の教えを研究し、まとめた朱子学は、ぎょうぎ作法を大切に、言葉や行いをつつしむことを重んじました。したがって、幕府も身分制度やきまりを守るのに都合のよい朱子学を盛んにするようつとめました。

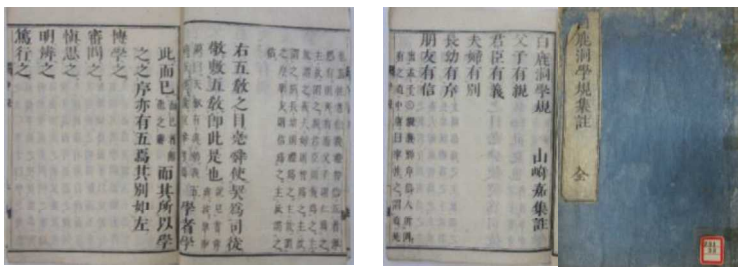
「藤樹規」は、朱子が中国の白鹿洞という書院での教育手段や方法をまとめたものをもとにした、藤樹書院の学則です。藤樹先生は、朱子が外から見える形を窮める形にこだわったことに對して、心の持ち方を致めるといって独自の解釈を挿入し、形より心を学ぶことを門人たちに伝えました。

論語「顔淵第十二の十六 書 淵田瑞穂さん

君子は人の美を成し
人の悪を成さず
小人は是に反す

「立派な人は、人の良い所が成長できるように助けて導き、悪い方向に行こうとしたら注意したり行動を止めたりするが、そうでない人は、反対のことをしてしまおう。」という意味で、「指導者の心がまえ」を表した言葉とされます。

相手の良い所はほめて、弱い所は小さなうちにさりげなくき付かせる。これは、普段の人との付き合い方についても言えることではないでしょうか。



白鹿洞学規集註 (山崎闇斎解説書) 安政5年 (1858年)

* 記念館だより *

以前の生活が恋しいなあ、当然です。この状況下で新しい生活が創れる喜びもあります。

新年度が始まり2ヶ月が経ちました。新しい学年や学級などで何でも話せる友だちができました。困ったことや心配事は親しい友だちに相談するといいですね。話をただで半分解決したようなもの。決して一人でため込んでよくよしないことです。表題に書きましたが、近頃人と話すと「以前の生活がよかったなあ。」とか「元の生活に戻りたいなあ。」とおっしゃいます。逆転の発想はいかが。この状況で楽しめる生活様式を皆で相談しながら創り出せる幸せを感じるのです。元には「戻れない」ではなく「戻らない」の考え方です。すぐには無理ですが時間をかけながら徐々に変えていけるといいますね。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330